

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 広瀬アルバム (その3、写真16枚) (東京天文台100周年記念誌資料2-29-3)**

アーカイブ新聞第862号(2015年11月10日)に「広瀬アルバム(その1、写真20枚)(東京天文台100周年記念誌資料2-29-1)」という記事を書き、その続編をアーカイブ新聞第863号(2015年11月10日)に「広瀬アルバム(その2、写真16枚)(東京天文台100周年記念誌資料2-29-2)」と書いてきた。この号は第862、第863号に続く続編である。今回は写真リスト(表1:862号に掲載)のNo.46からである。



写真1



写真2

写真1は後列左から2人目の和服の人が広瀬先生である。おそらく天文台官舎の庭で撮った写真であろう。ほかに同定できる人はいない。写真2は、1952年5月22日生田三角点とメモにあり、名前が写真3のように書いてある。

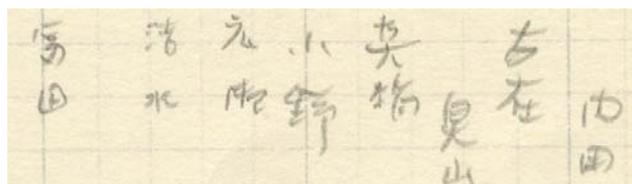


写真3



写真4



写真5

写真4は、1940年4月3日奥多摩とある。山小屋の前での記念写真、同定できる人物は1人もいない。写真5は、1942年5月10日御嶽朝日峠とある。後列左端が下保さん、右端が広瀬先生である。



写真6

写真6は非常に状態が悪いが何人かは同定できる。前列座っている左から3人目が島地、1人おいて工藤、その斜め後ろが萩原台長、その右が内田さん、その他はわからない。次の2枚の写真は東京天文台の古い野球部の写真で、これらはアーカイブ室新聞第362号（2010年7月13日）に「宮地政司、広瀬秀雄両元台長も野球部員だった」という記事で紹介した。



写真7

写真7は、保存状態は非常によく。連合子午儀室前での記念写真であり、「田代」とメモ書きがある。筆者に同定できるのは、左から7人目が橋元昌矣氏のみである。



写真8

写真8は本館（一）と呼ばれた建物の東南で撮られた記念写真であろう。最後列左から3人目は広瀬先生、最前列の右から2人目が畑中武夫、6人目が富田弘一郎、その後ろが萩原雄祐台長、その右が橋元昌矣氏である。ほかにも何人か同定できる。



写真9

写真9は、1932年4月4日の日付があり、前列中央が平山信2代目台長、その右が萩原雄祐、裏にメモ（写真10）があるが完全には読めない。

1932 April 4
memory of graduation

写真 10



写真 11

写真 11 は格式ある和室での記念写真であるが、1935年7月2日の日付があるのみである。前列右から4人目が萩原雄祐、後列右から7人目が藤田良雄であろうか。

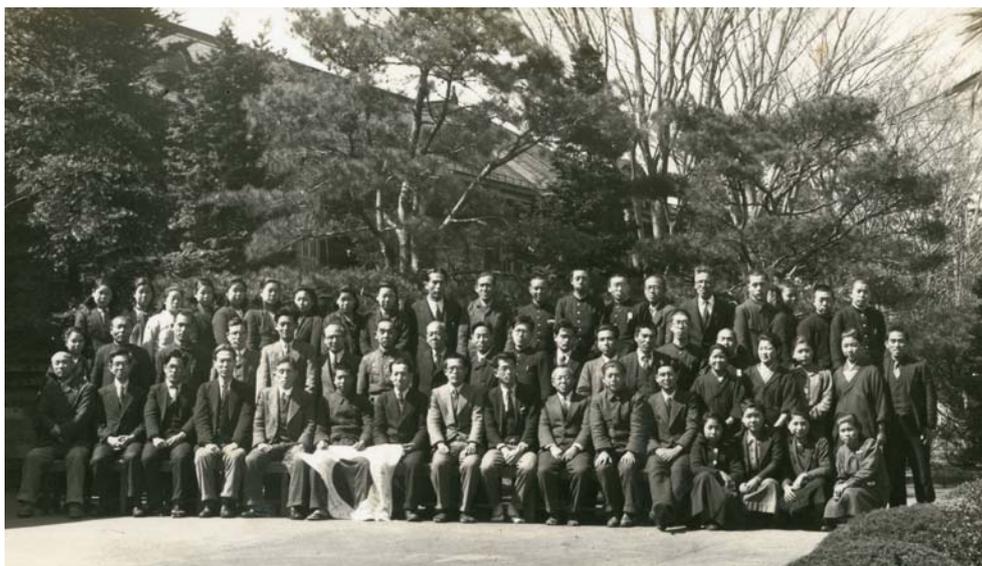


写真 12

写真 12 は、樋口孝一という職員の出征記念写真である。日の丸の後ろが樋口氏、左が関口台長、右が広瀬秀雄である。前列左端には工藤房之助、広瀬先生から右に 2 人おいて橋元昌矣、その右が辻光之助であろうか？この写真の下には不完全な名前書きがあり、広瀬秀雄の右の人の斜め後ろが大沢清輝とある。



写真 13

写真 13 も出征記念写真と思われ、前列中心の若い人、「水洗」という人を送る際のものであろう、この写真にはほとんどの人の名前が書かれている（写真 14）。

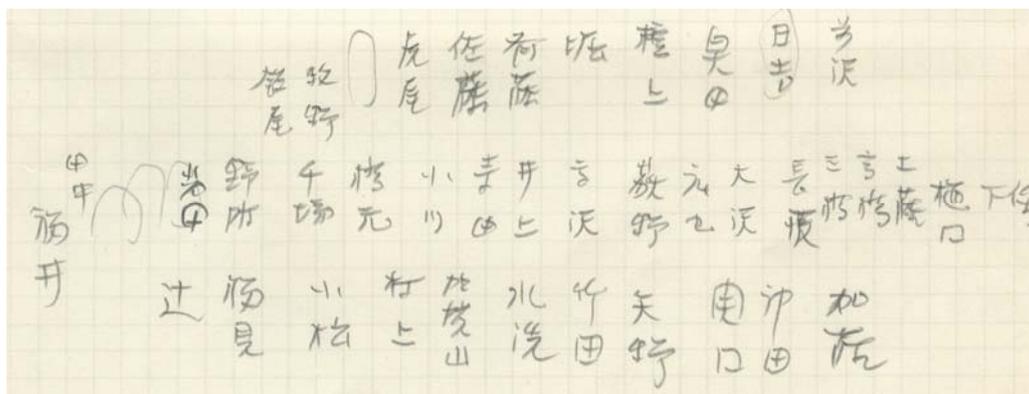


写真 14

写真 15 は、すでにアーカイブ室新聞に載せた記憶がある。広瀬アルバムに 3 人の出征記念写真があるので、この写真もこの号にも載せておきたい。この写真が一番出征記念写真らしいものである。左橋に日章旭日旗があり、祝出征山下（名前の部分が判読不能）とあり、彼の右には関口台長、左には関口台長が文部省に出向中台長事務取扱であった福見尚文氏が写っている。山下氏の名前を調べたが、旧職員名簿には退職時に本官以上であった専任職員などの条件があり、山下氏の名前はなかった。しかし、東京天文

台には観測用に山下時計というものが長く使われたが、この時計の製作者ではなかったのか！写真 16 が写真の下に書かれた名簿である。



写真 15

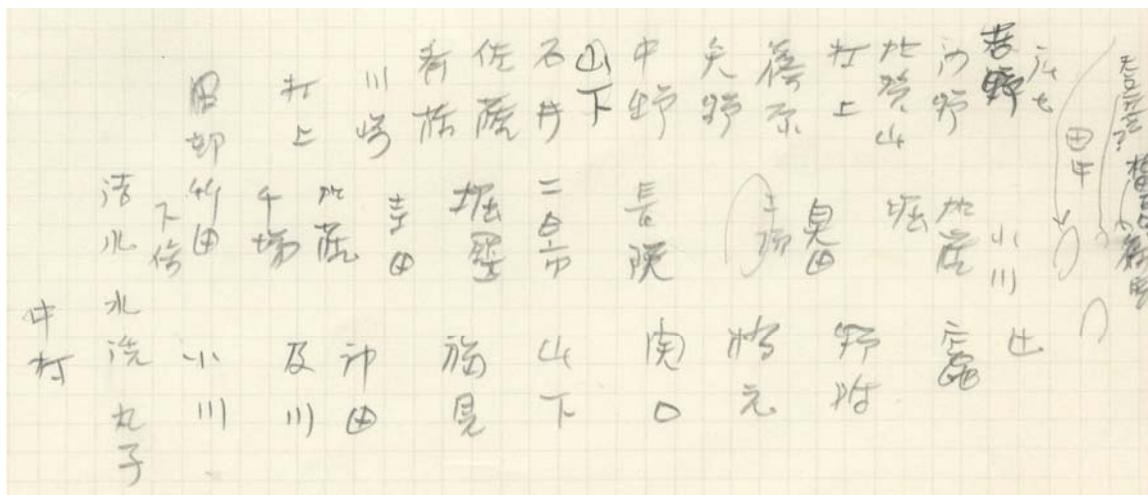


写真 16

残りは次号に回す。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp